

# 行歯会だより -第56号-

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会) 2010年6月号

## 【今月の記事】

- 地域紹介 「山形に来てけらっしゃ〜い」-全国歯科保健大会開催県- (山形県・鍛冶山)
- 保健所がコーディネートした医科・歯科連携事業に期待! (滋賀県・井下)

～最後に、「今月のおまけ みみよりニュース」もありますよ♪～

## シリーズ「地域紹介」

### 「山形に来てけらっしゃ〜い」

山形県健康福祉部保健業務課 歯科保健主査 鍛冶山 徹

行歯会の皆様、いつも大変お世話になっております。山形県の鍛冶山です。今年の全国歯科保健大会は山形県山形市で開催いたします。せっかくのチャンスを頂いたので山形県を紹介させていただきます。とはいえ私は山形に来て12年目。ちょうど干支が一周したところですがまだまだ山形県民としては12歳児並です。間違っているところもあるかもしれませんが、どうかお許しください。

皆さんは日本テレビ系列の「秘密のケンミン show」ごらんになっていらっしゃいますか? 私はあの番組が結構好きです。日本の国内にもこれだけの地域による違いが

あるんだなあ!とあらためて教えてくれます。一方で「誇張しすぎ」「一部の人がやっただけで県民みんながやっってるわけではない」という批判も多いようですが、県民性や国民性というものはとかく誇張され、揶揄の対象になるものなのでしょう。

この番組内で山形県は2008年に最も取り上げられた回数が多かったために「秘密のケンミン SHOW アワード」を受賞しています。県庁に取材スタッフが来て県庁の食堂と当時の副知事に取材していきました。そして番組をみて皆唖然としたのです。

### 1. 山形県民は菊の花を食べる

<http://www.nmai.org/crops/umaimono/vegetables/kiku.html>

これは私には逆の意味で驚きでした。私の出身地、新潟でも食用菊はポピュラーだったからです。新潟でも山形でも菊を食べるのがごく当たり前だったので気づきませんでした。全国的には菊を食すのはかなりの少数派。新潟と山形が二大生産地であり二大消費地のようです。ちなみにリンクの写真の紫色の菊の正式名は「延命楽」というありがたい名前。山形では「もってのほか」新潟では「かきのもと」と呼ばれて親しまれています。

### 2. 山形県民は雑草を食べる

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/okitama/325043/dentoyasai/ukogi.html>

「ひょう」（正式名スベリヒユで全国どこにも自生しているそうです）という雑草を辛子醤油で食べるのがポピュラーのようです。私は食べたことが無いので味についてはなんとも言いようがありません。そういえば山形ではいなごの佃煮も内陸部ではよく食べるようです。食糧難に備えて雑草や昆虫を食べることができるのは良い事かも知れませんね。

### 3. ゲソ天がラーメンにトッピングされる。

イカ天でなくゲソ天であるところがポイントです。ネイティブヤマガタンの某先生が「イカのうんまいとはみんな東京さ取られて山形さ残るのはゲソの硬たいとこだけなんだぜー」とおっしゃっていましたが真偽の程はわかりません。

ラーメン屋や蕎麦屋でゲソ天がメニューにあることが結構あります。お客様向け高級店ではパリッと揚げたてのゲソ天が出てきます。地元の人々の集う大衆店ではときどきスーパーでパックで売られているのをそのまま持ってきたか？と思うような冷めて衣が柔らかくなったゲソ天が出てきますが、私は根っから B~C 級グルメなので結構後者も好きです。(蛇足ですが市町村名の書いてある公用車が多く駐車してある蕎麦屋、ラーメン屋はおいしくて待たせない店である確率が高いと思いませんか?)

さて、いずれも「秘密のケンミンSHOW アワード」にふさわしいものかもしれませんが、この番組の難点は「珍しいけど集客効果には結びつかない」事例が多いのです。菊や雑草、ゲソ天で喜ぶひとは少ないと思いますので、最後は真面目な山形紹介で締めくくりたいと思います。

山形県は、東北地方の日本海側に位置し、東京から山形新幹線で約3時間の距離にあり鮮やかな四季で知られております。秀麗な山々に囲まれ、「母なる川」最上川が流れる、美しい自然に恵まれた地域です。明治時代の世界的な女性旅行家、イザベラ・バード氏に「東洋の理想郷・アルカディア」と呼ばれ、ライシャワー元米国駐日大使には「もう一つの日本」と称された地域でもあり、県内全市町村に温泉が噴出する全国屈指の湯どころでもあります。

皆様方には是非、山形にお越しいただき、大会への御参加と山形県の豊かな風

土と郷土料理なども十分に満喫していただきたいと思います。

第31回全国歯科保健大会は平成22年11月6日（土）12：30から山形テルサ [www.yamagataterrsa.or.jp](http://www.yamagataterrsa.or.jp) で開催予定

です。皆様のおいでを直江兼続のように「愛」を持ってお待ちしております。

米沢市の直江兼続  
マスコットキャラクター  
「カネタン」



## 保健所がコーディネートした医科・歯科連携事業に期待！

滋賀県健康福祉部健康推進課 参事 井下 英二

ちょっと久しぶりな、滋賀県の井下です。皆様、お変わりありませんでしょうか？

私の方は、今年度より業務の守備範囲が大幅に広がり、昨年度の、歯科保健、がん対策、たばこ対策、食育対策、生活習慣病・健康づくり対策に加えて、リハビリテーション、母子保健、周産期医療整備が加わり、大混乱の毎日を過ごしております。今回は、平成20年度の草津保健所にいた時に（なつかしい～）取り組んだ「脳卒中、糖尿病をテーマとした歯科・医科連携推進事業」について報告いたします。

行歯会だよりでは、最近、国から補助をもらって展開している研究事業の成果を会員に紹介をしているということですので、今回はわたくしが関わった事業の成果の一部を紹介させていただきます。

日本公衆衛生協会が厚生労働省からの補助により実施する「地域保健総合推進事業」のうち、全国保健所長会が協力して行っている事業のひとつに「歯科・医科連携による歯周疾患アプローチに関する研究」（分担

事業者 瀬戸 昌子＜滋賀県高島保健所長（現、東近江保健所長）＞があります。

本研究は、患者主体の医療体制構築に資する歯科と医科の連携を推進するために、全身疾患と口腔疾患との関連性に関するエビデンスを整理した上で、地域における歯科・医科の効果的な連携方策について検討、提案することを目的とし、歯科と医科の連携推進において大きな役割を果たすこととなる「保健所」における歯周病と糖尿病との関連の認識、口腔ケアと誤嚥性肺炎や高齢者のインフルエンザとの関連の認識および地域連携クリティカルパスの運用状況等についてアンケート調査を実施しました。

調査は、平成21年1月～2月にかけて保健所長会メーリングリストを活用して行いました。263 保健所から回答が得られ、回答率は51.3%（都道府県型53%、市区型46.1%）、回答方法は、64.9%がインターネット、34.7%がファクシミリでありました。

歯周病と糖尿病との関連、口腔ケアと誤嚥性肺炎や高齢者のインフルエンザとの関連については、概ね7割以上の保健所が認

識していました。

糖尿病の地域連携クリティカルパスについては、運用中は6%、準備中は30.2%であり、その中でパスに「歯科」が組み込まれているのは14.4%、準備中が24.7%でありました。パスの連携先として「歯科」を考慮するは約1/2、歯科医師会が積極的なら考慮するは38.3%、すでに連携済みは4.3%でありました。

脳卒中の地域連携クリティカルパスについては、約1/3の地域で運用中、同じく約1/3の地域で準備中でした。パスに「歯科」が組み込まれているのは15.6%、パスの連携先として「歯科」を組み込むことを考慮するは47.2%、歯科医師会が積極的なら考慮するは38.6%、すでに連携済みは6.4%でした。

一方、このような定量的なデータだけでなく、自由記載として「これまで歯科と医科との連携で経験した事例」および「これから歯科と医科との連携を進めたい課題」等について回答を求めたところ興味深い記載が少なくなかったので主なものを紹介します。

まず、「これまで歯科と医科との連携で経験した事例」では、

- ・ 特定健診案内に歯周病セルフチェック票を入れるよう健保連に依頼し、医師会には病診連携として糖尿病の診療情報提供書の活用を依頼した。
- ・ 医科から「糖尿病健康手帳」の有効活用が提案され、平成19年度から手帳を介した医科歯科双方向からの情報提供を図っている。
- ・ 脳卒中などで脳に障害を負って口から食べるものが難しくなった人に対し、口から食べるための介助やリハビリにど

う取り組んで行けばいいのか探り実践するためのセミナーを管内医師会と歯科医師会が連携して継続して実施している。

- ・ 保健所難病患者在宅ケア推進委員会を開催し、地区医師会・地区歯科医師会の協力を得て、地域主治医紹介システムの構築に取り組んでいる。
- ・ 管内病院糖尿病教室で歯科衛生士が1単位講演している。
- ・ 難病患者（ALS等）の訪問時に歯科衛生士が同行し、口腔ケアに問題がある場合は、歯科医に紹介している。また、カニューレ交換時には、歯科衛生士が事前に口腔ケアと開口の保持に当たっている。
- ・ 早産予防のため妊婦の歯周病健診、生活指導を実施。

次に、「これから歯科と医科との連携を進めたい課題」としては、

- ・ 新型インフルエンザ発生時の歯科医師会の協力
- ・ 糖尿病と呼吸器疾患についての連携
- ・ 脳卒中患者への口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防
- ・ 嚥下障害や口腔内に問題のある患者について、歯科医師や歯科衛生士等を含めた入院時からの具体的な対応
- ・ 歯科医から禁煙の勧めと禁煙外来への紹介システム
- ・ 地域リハビリテーション、介護予防の推進、災害時の医療救護体制整備等。
- ・ 高齢者施設におけるインフルエンザ等の呼吸器感染症を防ぐための口腔ケア
- ・ エイズ、B、C型肝炎等様々な予防対策の推進
- ・ 認知症に対応する地域の在宅ネットワーク事業

- ・ワーファリン服用患者の歯科治療
  - ・脳卒中患者の急性期・回復期の医療機関における口腔ケア・摂食嚥下障害・義歯作成の取り組み
  - ・産科と歯科の連携
- などの回答がありました。今後、今回多

くの保健所からいただいた連携事例や連携のための提案を参考に、地域において保健所がコーディネートした医科・歯科連携事業を実施し、具体的な連携事例を積み重ねて実績を示していくことが重要と考えています。

今月のおまけ「みみよりニュース」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



厚生労働省老人保健健康増進等事業補助金（小坂班）で作成された『口腔機能向上加算推進ビデオプログラム』が以下のHPでストーリーミング配信されています。是非御覧ください！  
[http://www.dent.tohoku.ac.jp/graduate/lecture17\\_1.html](http://www.dent.tohoku.ac.jp/graduate/lecture17_1.html)



梅雨、台風といたずらな天気が続く季節となりました。そんな中の6月、一年で一番多忙な月として、お忙しい日々を過ごされていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。  
 今回、山形県から全国歯科保健大会の御案内記事をいただきましたが、そろそろ様々な学会等の行事予定がでてくる頃かと思えます。是非、その最新ニュースをお知らせください。次回、掲載できたらなと思っています！ 【編集担当】

